

2020年7月12日礼拝説教要約
詩篇の言葉で祈り、賛美する①

「幸いなことよ」

(詩篇1・1〜6)

一、幸いなことよ

詩篇1篇は、「幸いなことよ」から始まり、何が幸いなのでしょうか。1節2文目から3節までに語られている人です。まず、1節2文目から1節の終わりまでをご覧ください。「悪しき者のほかりごとに歩まず 罪人の道に立たず 嘲る者の座に着かない人」とあります。この、「歩まず」「立たず」「座に着かない」は、人間が、特に若い人が悪い道に深入りして行く段階を指している言葉のようです。最初は聞き心地の良い言葉で誘惑され、次の段階では「悪しき者」と行動を共にしており、最終的には「悪しき者」の座に着き、自分も一緒にあって神を嘲るようになるという意味です。そうならない人が幸いであると、語られています。

では、人が道を踏み外さず、まっすぐに歩むためには、何が必要なのでしょうか。2節です。「主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人」とされることです。ここに、「おしえ」が二回出てまいります。どちらも「トローラー」です。「トローラー」は狭く受け止めれば「おしえ」であり「法」であり、広く受け止めれば「モーセ五書」

であり、さらに広く受け止めたら「旧約聖書」の全体であると言えます。では、「主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人」から、どのような姿が思い浮かべられるでしょうか。主との交わりを楽しみつつ、喜びに溢れ、神を畏れつつ、聖書の言葉に耳を傾けている姿です。

3節をご覧ください。「その人は 流れのほとりに植えられた木。 時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」とあります。

詩篇1篇の作者は理想郷、すなわちエデンの園のような情景を思い浮かべたかも知れません。「流れのほとりに植えられた木」というイメージは、聖書の舞台となった地域においては理想郷の姿でした。

ちなみに、「主のおしえ」は、イエス・キリストを信じる者にとっては、旧約の預言の成就であるイエス・キリストであり、キリストの福音です。私共は世にあつてはさまざまな患難を経験しますが、キリストを知り、キリストを愛し、キリストを最優先にして生かされている人は、幸いな人です。「そのなすことはすべて栄え」ます。

神の祝福は不思議です。すべてのことが益になるからです。なぜそうなるのか、私共には分からないのですが、益になるのです。小さな事でも、主にあって誠意を尽くすとき、とんでもないこと

ころから祝福が訪れます。ですから、神を畏れ敬い、神を己の喜びとして歩もうではありませんか。

二、悪しき者

幸いな人が「主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人」であるなら、「悪しき者」はその反対です。主のおしえを軽んじ、神を嘲る人です。神を嘲る人は、人のことも軽く見て、自分のために人を利用するようになりま

畏れる者と「悪しき者」とを対比させて、あたかも人々を、特に若い人々を、主を畏れる道に導いているようです。箴言に入っている、おかしくない内容です。ですが、主を畏れること、そして主のおしえである聖書に聴くことは、御心になかった祈りの生活を始める出発点です。と言いますのは、御心に適った祈りは祈る者の心を整えて清くしますが、罪の問題が解決されていない人の祈りは、主に忌み嫌われるからです。箴言にもあります。「箴言15・8 悪者のいけにえは主に忌み嫌われ、心の直ぐな人の祈りは主に受け入れられる。」と。

4節が語っているのは、「悪しき者」、すなわち主のおしえを軽んじ、神を嘲る人は、良くない意味で軽いということとです。神を軽く見る人は、自らの人生も良くない意味で軽くなり、祝福されません。そして行く着くところは、どこでしょうか。6節2文目をご覧ください。「悪しき者の道は滅び去る。」とあります。「滅び去る」とは、消え去ることです。その人の人生は記憶されません。寂しいことです。対して、神を畏れる者の人生は、主が良しとされた人生です。いつまでも人々の記憶に残ります。6節前半に「まことに 正しい者の道は主が知っておられ」とあります。

私共は「自分たちの祈りがほんものだ」などと思いがちなことなく、「自分は神の霊に導かれて、御心に適うことを祈っているか」と問いかけるべきかと思えます。

ヨハネの手紙第一1章7節に、「もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」とあります。

ヨハネの手紙第一1章7節に、「もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」とあります。

私共は主の前に祈るうではありませんか。「主よ、私を清めてください。御子イエス・キリストの血によって、すべての罪から清めてください。祈りが御前に届くように、私共のくちびるを清めてください。思うこと、願うことを清めてください」と。

三、祈る時に

いかがでしょうか。詩篇1篇は、主を

私共は主の前に祈るうではありませんか。「主よ、私を清めてください。御子イエス・キリストの血によって、すべての罪から清めてください。祈りが御前に届くように、私共のくちびるを清めてください。思うこと、願うことを清めてください」と。